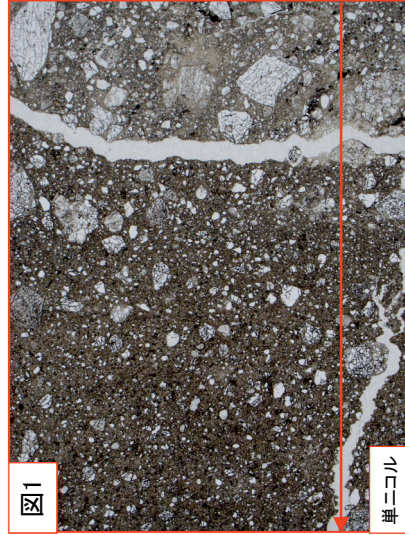
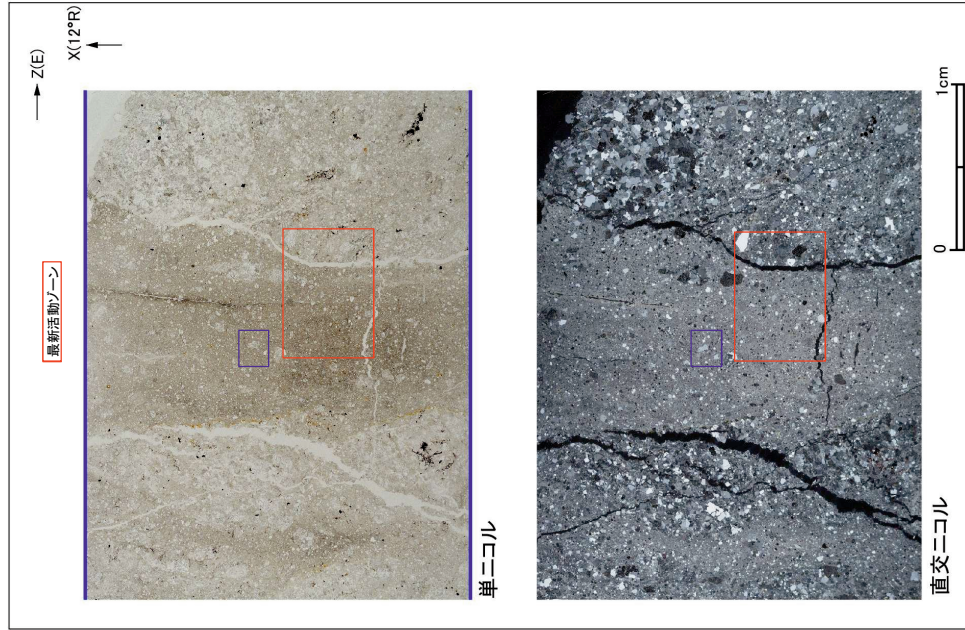
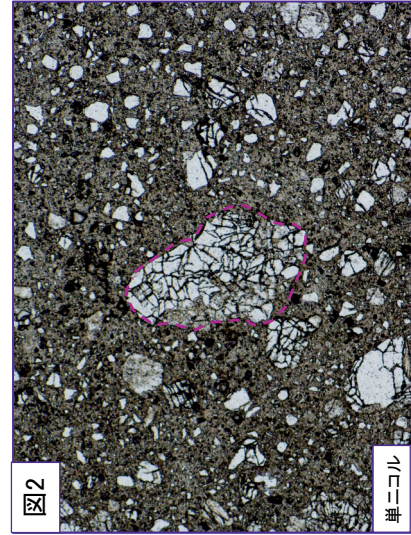


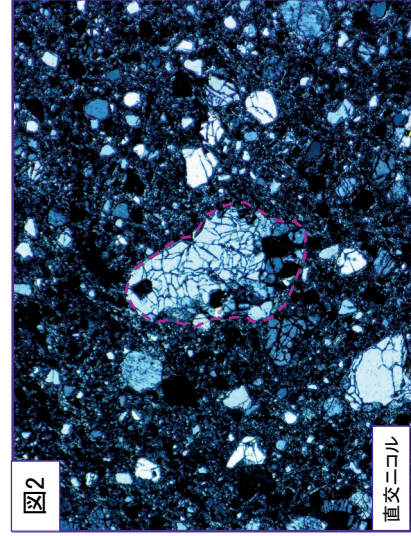
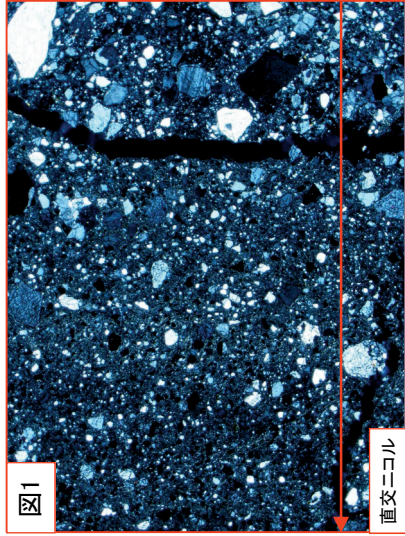
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
 - 岩片は少ない。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



赤矢印は粘土鉱物の分布が漸移的に変化することを示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度74.58m)

- 深度74.57～74.58mの「砂混じり粘土状」と記載の箇所については、粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 β に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 β は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、断層ガウジの特徴が認められなかった。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「砂混じり粘土状」と記載の箇所については、その特徴から、断層ガウジであると判断した。
 - 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で断層ガウジと認定した「砂混じり粘土状」と記載の箇所については、薄片観察では岩片主体の基質で構成されている。このため最新活動ゾーンの細粒部は変質したカタクレーサイトと評価した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	- (0.6)	- (無)

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度84.89～84.97mの「粘土・砂質角礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度84.97～85.12mの「粘土・砂混じり角礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●84.89～85.12m：破砕部
 84.89～84.97m：粘土・砂質角礫状部(Hb)。上端10°で波打つ、下端2°で直線的。軟質。灰白色粘土が網目状に分布する。酸化汚染が顕著で褐色を呈する。
 84.97～85.12m：粘土・砂混じり角礫状部(Hj)。下端64°で漸移的。灰白色粘土が網目状に分布するが、原岩組織は残る。やや硬質。にぶい橙色を呈する。

コア写真



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

灰白色粘土が網目状に分布する



青枠部拡大

・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

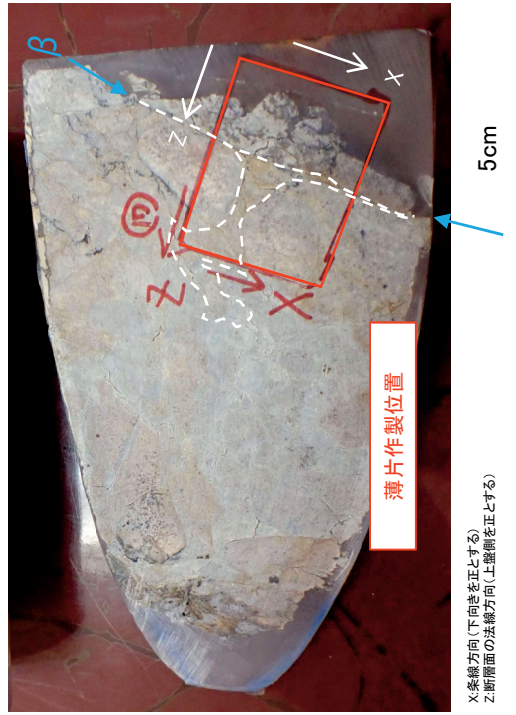
コア写真

※断層面βは最新活動面

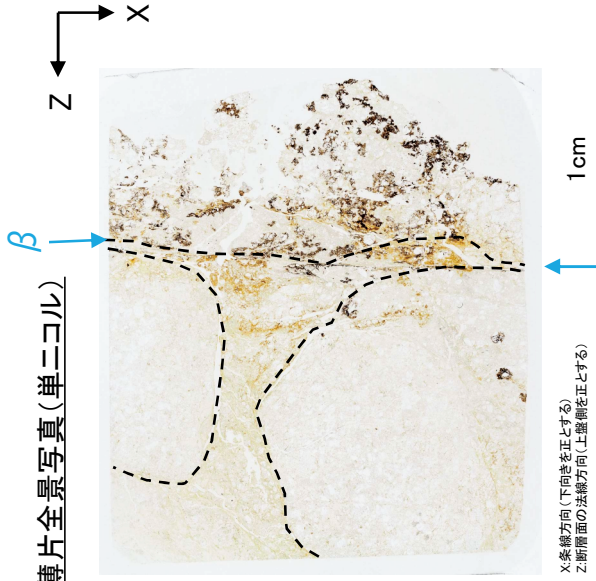


※破砕部範囲のうち、一部のコア写真を表示

薄片作製位置写真



薄片全景写真(単コル)



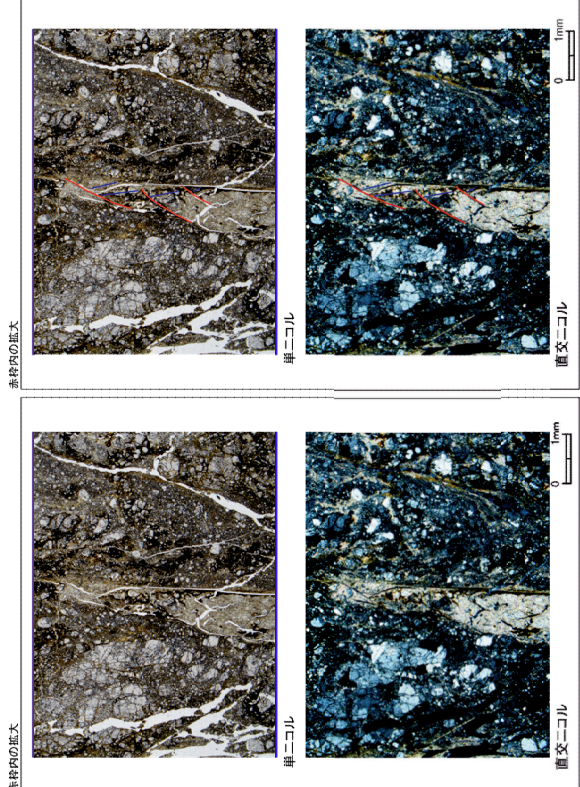
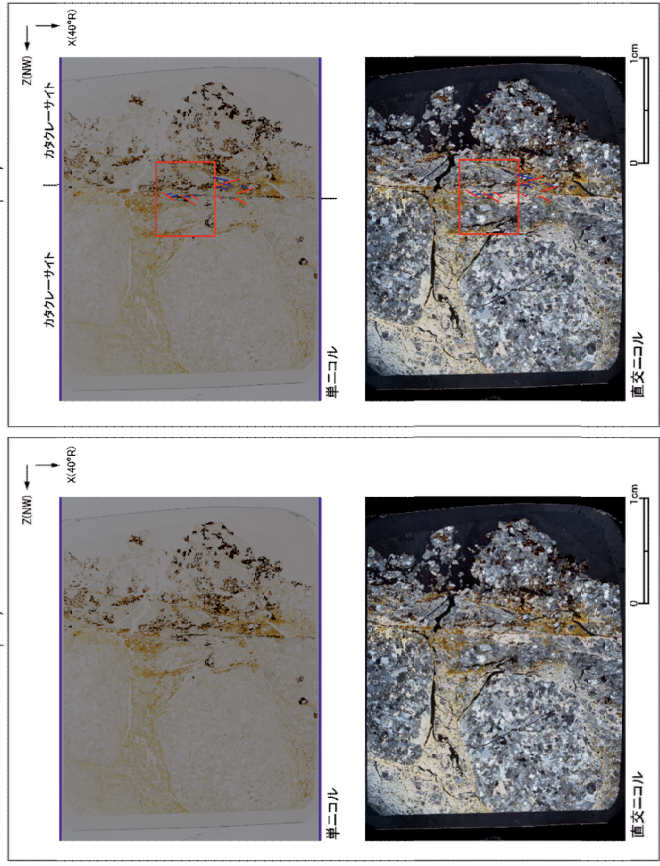
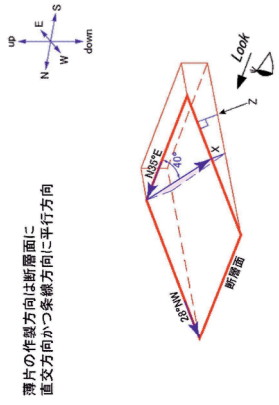
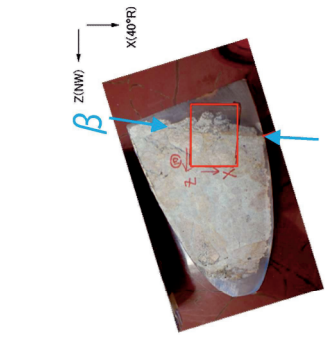
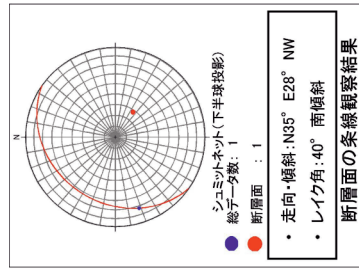
凡例

- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
- ※:写真上は白色又は黒色で記載

・H31-R-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトと判断した。

- (カタクレーサイト)粘土状部の分布は局所的である。
- (カタクレーサイト)粘土鉱物の分布は漸移的である。
- (カタクレーサイト)角ばっている岩片が多い。
- (カタクレーサイト)岩片に粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。

※断層面βは最新活動面

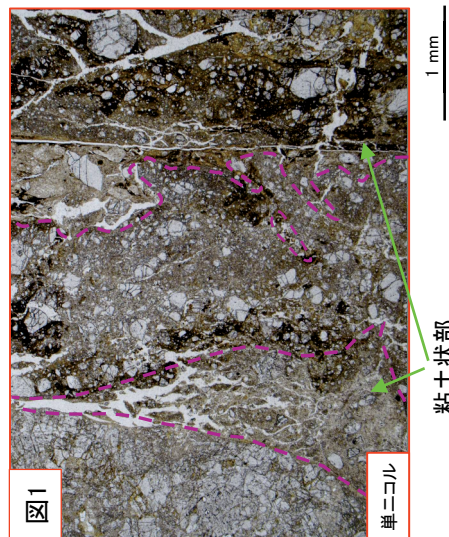
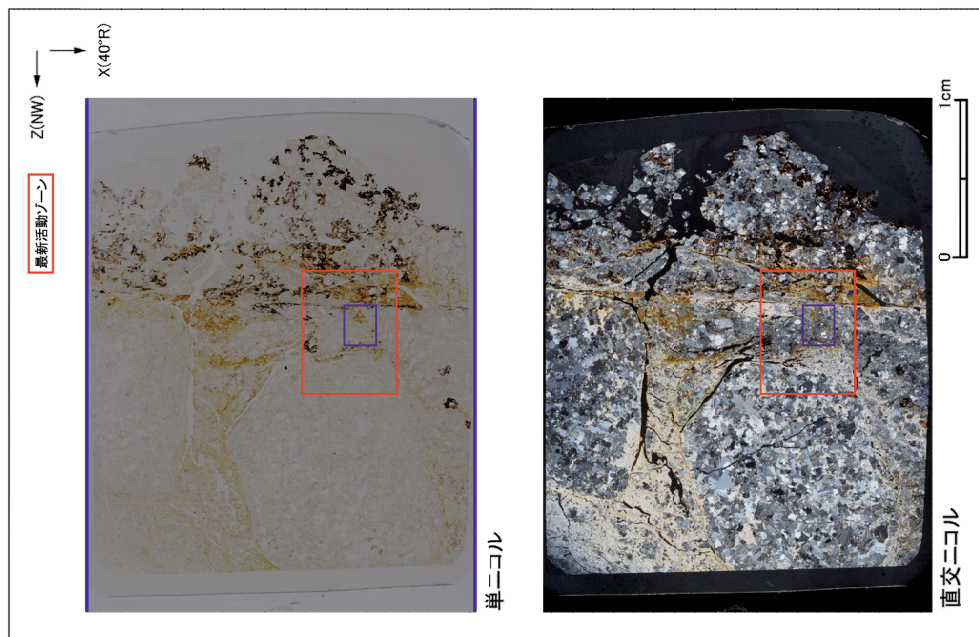


凡例
— 断層ガウジ
— カタクレーサイト
— R1面
— P面

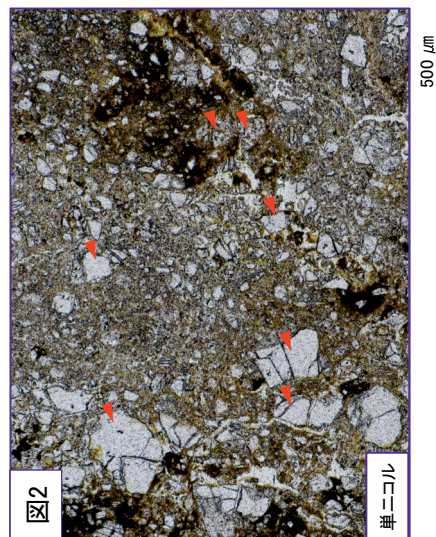
第7.4.4.375図 (3) 破碎部性状 H31-R-1 深度84.89~85.12m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 粘土状部の分布は局所的である。(図1)
- 粘土鉱物の分布は漸移的である。(図1)
- 角ばっている岩片が多い。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す



赤三角は角ばっている岩片を示す

